

学び変え続ける！！

最上位目標 豊小フライド「自立 創造 共生」

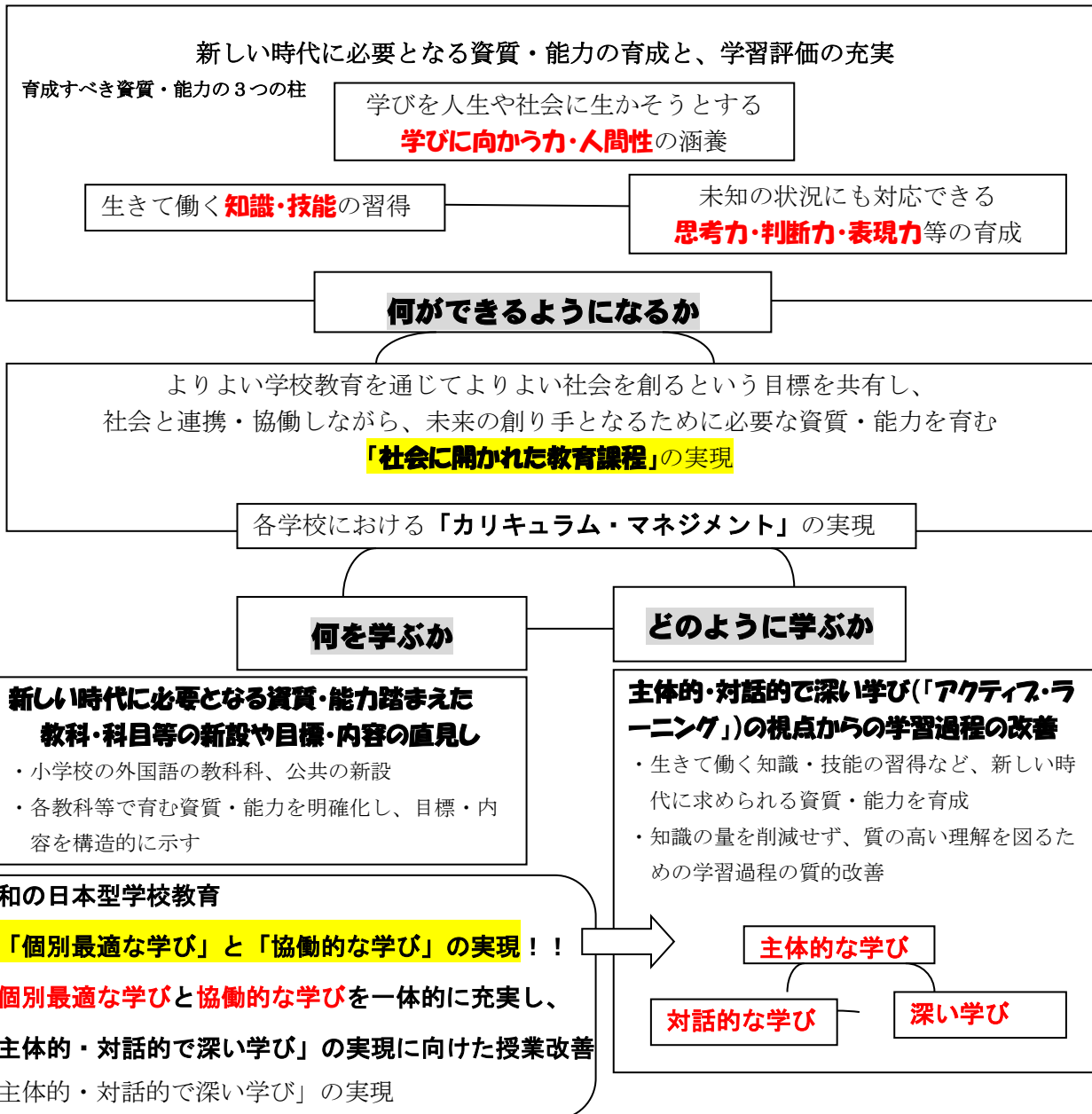
◇めざす児童像＝子どもに付けたい力

自立＝自分から行動する力 創造＝自分から創り出す力 共生＝自分からつながる力

【学校教育全体を通して育成したい資質・能力】

- 知りたいことや解決したいことを見つけ、進んで知識・技能を習得し、相互に関連付け、生活で活用できる力
- 認め合い考えをつなげながら、多面的・多角的な考えを重視した対話を通して、思考・判断・表現し、協働して新たな知を創造する力
- 学ぶことに興味・関心と見通しをもち、粘り強く取り組み、人や社会とのかかわりを大切にしながら、自らの学びを自分の生き方に生かそうとする力

【学習指導要領における育成すべき資質・能力の3つの柱】



学習指導要領の総則には、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら」授業改善（本校では「授業革新」）を行うことが大切であると示されている。これは、すべての授業において「主体的・対話的で深い学び」を求めていることではない。そして、「主体的・対話的で深い学び」について中教審答申では次の視点が示されている。

「主体的な学び」…「興味や関心をもつこと」「自己のキャリア形成の方向性と関連付けること」「見通しをもつこと」「粘り強く取り組むこと」を通じて自分の学びの振り返りを次につなげること。

<例：国語科の授業> 一人読みから疑問を感じて、次の時間に解決する課題を決める。

- ・めあてや課題、問いは本当に子どもに届いているか
- ・子どもは見通しをもち一人で学び始めるようになっているか
- ・何を振り返ればよいのか、その振り返りで次の時間への動機付けになっているか

「対話的な学び」…「子ども同士が協働的に学ぶこと」「教職員や地域の方と対話すること」「先哲の考えを手掛かりに考えること」等を通じ、自己の考えを広げ深めること。

<例：社会科の授業> 課題解決にあたり2つの資料と対話（比較）して、それを基に自分の考えを書く作業をしている

- ・子どもは話し合い活動や作業などの必然性を感じているか
- ・グループ活動では子供たちで自らの結論がつけられるようになっているか
- ・話形にこだわらず、受け止める力、返す（反応する）力を育てているか

「深い学び」…「見方・考え方を働かせること」「知識を相互に関連付けてより深く理解すること」「情報を精査して考えを形成すること」「問題を見いだして解決策を考えること」「思いや考えを基に創造すること」

<例：算数科の授業> 課題解決に算数的見方・考え方を働かせて、法則を見つけている。

- ・各教科等の目標の実現に向かっているか
- ・方法論のみにならないように教材研究を重視しているか
- ・子どもたちが既習事項や既有体験を新たな課題につなげようとしているか

※机の配置 明治以来の一斉画一的指導に合った通常配置では、教師も子供も学び方の変化に対応できない。机の配置変化＝学び方の変化！！